別紙

令和８年度校区まちづくり交付金　交付決定助言書
【東山本小学校区まちづくり協議会】

〔交付決定にかかる条件〕

※下記に記載の〔交付決定にかかる条件〕については、年度内の活動の中で実践や実施に向けた検討を進めてください。その実績や検討状況については、実績報告書に記載いただき、ご報告ください。

○チャレンジメニュー①：1-①「自助」の取り組みの定着・促進
・啓発活動においては検証が重要です。参加者アンケートの実施など、効果検証の実施についてご検討ください。

○チャレンジメニュー④：2-③団体に属さない人の参画促進
・チラシ配布の効果検証等を実施し、他の方法も組み合わせて展開する等の工夫についてご検討ください。

○チャレンジメニュー⑤：2-④組織基盤の強化
・上記取り組みと同様に、チラシ配布の効果検証等を実施し、他の方法も組み合わせて展開する等の工夫についてご検討ください。
・町会加入者の増加と合わせて、運営に関わる担い手への獲得につなげるために、どのような点に町会の魅力を感じ参加してもらうのかを具体的に検討するための地域活動に関する住民アンケートの実施についてご検討ください。

○取り組み①：情報共有化 Wi-Fi 環境整備
・Wi-Fi の整備により、どのような情報共有を行うのかについての具体的な検討やまち協の認知度向上へつながっているのかについての効果検証の実施をご検討ください。あわせて、Wi-Fi の整備による情報共有環境をより効果的に活用できる体制の整備についてご検討ください。
・幅広い情報共有の展開を進めるために、取り組み⑫「地区まちづくり協議会 SNS の運用」と組み合わせて広報活動の取り組みとして展開することについてご検討ください。

○取り組み④：災害時の情報収集・発信訓練
・いつ起こるかわからない災害に備えるため、より多くの方が無線訓練に参加できる手法についてご検討ください。

○取り組み⑤：大人の居場所
・多様な地域住民に参加してもらうための「趣味」をキーワードとする居場所づくりは期待が持てます。同じテーマで行っていると参加者が固定化してしまう可能性があるため、地域住民が講師になれるテーマを募集したり、テーマに応じた日時設定を行う等の工夫についてご検討ください。あわせて、誰もが参加しやすい仕掛けや工夫についてご検討ください。以下の「公園ベンチの「青空サロン」」についてもご参照ください。

https://www.city.matsumoto.nagano.jp/soshiki/31/159697.html

○取り組み⑥：ほほえみサロンふれあい喫茶
・上記取り組みと同様に、誰もが参加しやすい仕掛けや工夫についてご検討ください。

○取り組み⑩：地区防災
・取り組みの実施にあたっては、ひとり暮らし高齢者や障がいのある方、外国籍の方など、配慮が必要な地域住民の避難対応についてもあわてご検討ください。

○取り組み⑫：地区まちづくり協議会 SNS の運用
・まちづくりへの効果として、住民との関係強化につながる取り組みになっているか、また、SNS 運用がどのような効果をもたらしているかについて、Google フォームによるアンケート実施など、継続的に評価を行う手法についてご検討ください。
・地域住民の中には印刷物になじみがある方も多いことから、SNS と印刷物との使い分けや連携等についてもご検討ください。

○取り組み⑬：健康促進活動
・取り組みが、健康促進や健康を意識するきっかけにつながっているかの効果検証の実施についてご検討ください。

〔今後の活動にかかる助言〕
※下記に記載の〔今後の活動にかかる助言〕については、まち協活動でご活用ください。こちらの項目については、実績報告の際の実施状況等のご報告は不要です。

○取り組み⑪：地域ぐるみの登下校の見守り
・ジョギングやペットを散歩されている方への協力依頼はとても良いアイデアです。広報誌等で協力者の写真（顔出しはせず、後ろ姿のみ等）やペットの写真などを紹介することもよい PR になるかと思います。ご検討ください。

○取り組み⑫：地区まちづくり協議会 SNS の運用
・LINE 公式アカウントの運用にあたっては、まず無料プランで試験運用を行い、有効な運用方法を試行錯誤することをお勧めします。登録者数や発信頻度が無料最大数を上回りそうな段階で、有料プランへ切り替えてもいいかと思います。

<全体を通して>
○高齢者～大人世代が集まる「居場所づくり」の成功事例について
・いわゆる「高齢者向け」というサロンだと足が向かない層の中で、特に男性を対象に魅力的なコンテンツや空間デザインで引き込んでいる事例を以下に紹介しますので、ご参照ください。

事例：寺子屋・カフェ型のコミュニティ拠点「ご近所付き合いの再構築」

別紙

【東京都葛飾区・コミュニティカフェ「みんかふぇ」】
https://mincafe.parcic.org/
取り組み: 単に公民館で体操をするのではなく、街中の空き店舗などを活用した「ふらっと立ち寄れる居心地の良いカフェ空間」を地域で運営。
成功のポイント: 目的が「福祉・介護予防」だと敬遠されがちですが、美味しいコーヒーを安価で提供し、本や将棋を置き、何時間いても怒られない「大人のサードプレイス（第 3 の居場所）」として演出しています。結果として、普段引きこもりがちな男性高齢者も「コーヒーを飲みに行く」という自然な口実で集まるようになりました。＜そういう意味で、今回の東山本さんの方法も妥当と言えます＞

【長野県上田市・「宅老所」発の地域食堂・作業スペース】
取り組み: 支援が必要な高齢者だけでなく、元大工さんや手芸が得意な地域住民が集まり、DIY で椅子を作ったり、地域の子供たちの壊れたおもちゃを直したりする「技術提供型の居場所」を開設。
成功のポイント: 参加者に「役割（居場所での出番）」を与えたことです。「お茶を飲みに来る人」ではなく「頼りにされる職人さん」として扱うことで、60 代〜70 代の元気なシニア層がこぞって集まる場所になりました。
・以下の事例についてもご参照ください。
こども食堂「さなこみ」
https://www.pref.nagano.lg.jp/jisedai/documents/documents/15sanakomi.pdf
ローマンうえだ豊殿の家
https://www.ja-naganokai.or.jp/facilities/ueda/hodennoie/

○未所属層（自治会・子供会・老人会に入っていない人）を巻き込む方法
・「新しく引っ越してきた」「自治会や PTA の縛りが面倒で入っていない」という層を、従来の組織論ではなく「関わり方のハードルを下げる」ことで巻き込んでいる方法です。「団体加入」ではなく「テーマ・イベント参加」から入る以下の事例についてご参照ください。

【「緩やかなボランティア（お助け隊）」方式】
取り組み: 自治会や老人会への「入会」を求めるのをやめ、「年に 1 回、草むしりだけ手伝ってくれる人」「日曜日にペンキ塗りだけ手伝ってくれる人」というスキマ時間の登録制ボランティア（通称：地域おこし隊・お助け隊）を募集。
展開のポイント: 「役員決めや定例会などの面倒な付き合い」を一切排除し、「その日の作業だけ手伝う」という気軽さを作ります。IT 企業勤務の若い世代や、自治会未加入のファミリー層が「これならできる」と登録につながる可能性があります。作業後に一緒に BBQ 等をするうちに親しくなり、結果として地域の中心メンバーへ育っていくという好循環が生まれていくかもしれません。

別紙

【神奈川県横浜市・「PLAY-PARK（プレイパーク）」を通じたパパ・ママ世代の巻き込み】
https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/midori-koen/koen/playpark/playpark-1.html
取り組み: 従来の「子ども会」は役員の負担感が重く加入率が低下していました。
そこで、公園で「自分の責任で自由に遊ぶ」プレイパークイベントを有志で開催。
成功のポイント: 「子ども会に入って計画を立てる」のではなく、「今週末、公園でベーコン焼いて食べるけど来る？」というライトな企画からスタート。子どもが遊んでいる横で親同士が繋がり、「これ、もっと定期的にやろうよ」と自然発生的にコミュニティ化しました。既存の役職縛りがないため、自治会未加入の若い親世代が自発的に運営側に回っています。

○広報媒体の活用について
・SNS、ラウンドテーブル、各イベントの回覧チラシやポスター掲示を効果的に組み合わせて情報発信頻度を高めることが、多様な世代に情報が届くことにつながると思います。SNS をできる若者と一緒に、役員等の担い手を対象にした学びの場づくりについても検討されてはいかがでしょうか。役員との連携による効果が期待されます。
・取り組みの実施にあたっては、事業の検証をぜひ行ってください。